

ブレインストーミング（BS）と KJ 法の心得

1 : BS はアイデア出し。

難しいことは考えず、とにかく質より量で発言する。

大脳はお休みさせて本能と感性の赴くままに「垂れ流す！」

そのために

(1)質より量：一言でも多く発言する

(2)自由奔放：他人の目を気にしない。変な見栄や遠慮は NG

(3)尻馬推奨：他人の意見を踏まえて「さらにこんなことも・・・」というアイデアを出す

(3)批判厳禁：BS はひたすらアイデアを出す場面。議論の場ではない。批判は(1)～(3)の

障害となり、BS 全体の意義を損なうので厳禁！！

2 : KJ 法は構想の取りまとめ。BS とは打って変わって大脳全開！

第 1 ステップ：カードをばらばらに広げる。

第 2 ステップ：関連性のあるカードを重ね、見出をつける。

第 3 ステップ：第 2 ステップで作った小グループの見出を眺めながら、親近性のあるグループをより大きなグループへとまとめていく。

第 4 ステップ：グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替える。→配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、のがコツ。

第 5 ステップ：大グループごとに、中身を検討。

第 6 ステップ：完成形を記録（写真等）

第 7 ステップ：記録を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要／やりたいと思うかを議論。（上位 3～5 件を選出する投票も有効）合意形成へ。

KJ 法の手順

(川喜田二郎『発想法』中公新書、1967年；『続・発想法』中公新書、1970年より)

第1ステップ：

まず、BS等の手法で作られたたくさんのカードをばらばらに広げてみます。

第2ステップ：

カードに記載された「1行見出し」を眺めながら、関連性のあるカードを重ねていきます。最後に、それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出し＝「表札」をつけて上に載せます。その上で、それぞれのグループのカードを輪ゴムで束ねます。

*第2ステップの作業では、以下の点に注意して下さい。

- ・1グループのカードは最初は数枚程度。はじめから大きくまとめようとしない。
- ・1枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまわない。無理に他のグループと一緒にしない。

第3ステップ：

第2ステップで作った小グループの「表札」を眺めながら、互いに親近性のあるグループを中グループにまとめます。この作業を何度かくりかえし、10近くの大グループにまとまったらグループ化作業は終了です。

大グループにも表札をつけますが、グループ分けがすべて終わってからというのではなく、カード全体の3分の2程度がまとまってきたところで、グループ分け作業と並行して表札作りを進めて下さい。

第4ステップ：

ここからいよいよ論理的整序の段階に入ります。グループ間に論理的な関連性ができるよう大グループのカードの束を並べ替えます。「空間配置」と呼びます。配置の意味する内容を、ストーリーのようにつないでしゃべれるようにする、というのがコツです。

第5ステップ：

空間配置ができれば、カード束の間隔を広げ、それぞれ1段下の段階までほぐしてみます。その上で、もとのグループの範囲内で、ただし隣接する大グループ（およびその1段下の束）との親近性に注意しながら中グループレベルの空間は一を行います。これでカードの作業は終了です。

第6ステップ：

カードで作った空間配置を別の紙に写し取るのが次のステップです。その際、上の図のように、グループ間の関連の内容を示す記号を使って、空間配置の論理連絡が分かるようにします。たとえば次のような記号を使います。

第7ステップ：

いよいよ最後のステップです。図を見ながら、すべてのグループのうちどれが重要と思うか、各自最高5点から1点の順で点数をつけます（6番目以降は点数をつけない）。総得点が最も高い5つのグループをゼミでのグループ研究のテーマとします。研究にあたっては、KJ法によってえられた中テーマ等が主要な研究項目となるでしょうし、また図解の「因果連関」も重要な指針を与えてくれるでしょう。